

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教学人日本バプテスト連盟総務部

2016年11月22日午前5時59分、福島県沖を震源とするM7.4の東日本大震災の余震が発生。

本紙第41号で「その日・福島は」として郡山コスモス通りキリスト教会の様子をご報告しました。福島の方々は一たび大きな余震に見舞われると2011年3月に被った恐怖が想起され、不安にさらされる現実にあります。このような中で郡山コスモス通りキリスト教会では、大量放射能漏れ事故の際の避難マニュアルを現実的な対応に合わせて改訂し、教会員と共有することができました。また、福島の方々が強く不安を抱えている放射能による健康への影響については、医療機関から納得のある説明を示されないケースが多いなど、6年経っても健康への不安がぬぐえない「もどかしさ」の中で生活せざるを得ません。これら尽きない悩みを分かち合っていたりたく2つの記事をご紹介します。（東日本大震災被災地支援委員会）

避難準備計画について

郡山コスモス通りキリスト教会 金子千嘉世

2011年3月12日に福島第一原発1号機が爆発し、「原子力緊急事態宣言」がだされたあの日から現在に至るまで、福島で生きる私達の教会は日常的に「避難前提」での生活を強いられて来た。どうしたら子どもたちを守れるのか、どうしたら教会員が少しでも安心して暮らせるのかを模索して2012年に避難計画を立てた。しかし、6年経ち、状況の変化と2016年11月22日に福島第二原発3号機の使用済燃料プールの冷却浄化系ポンプが地震の揺れにより冷却停止する事態を経験したこともあり、今に適応する避難計画の立て直しを実施した。

改訂にあたって基本とする事項：

「みんなで一緒に・・・」から

「各世帯（てんでんこ）で・・・」避難する。

当初の避難計画は緊急事態が発生したら教会に集まり、車に分散して「みんなで」避難する計画であった。しかし、避難できない家族や教会員の家族構成、仕事の状況の変化などがあり、基本は各世帯ごとで「てんでんこ※」で避難することとした。

※てんでんこ：おのおの、めいめいと言う意味。津波避難の心構えとして「津波てんでんこ」が提唱された。（新聞記事の説明による）

A. 事前準備

1. 緊急連絡網の見直し整備
変更があるたびに作成し直すこととした。また、半期に一度は点検、確認を行う。
2. 避難先計画案の作成
緊急事態に備え、各世帯で緊急時にはどうするのか、また、避難するか自宅待機とするかを話し合っておくことを推奨している。緊急事態発生の際「誰が、何処に、どうする」のかを把握するために各自の「避難先計画」を提出する。（牧師保存用、教会保存用、個人保存のためそれを3部印刷する。）
その「避難先計画」には、避難か、自宅待機か、誰と一緒に避難するのか、更に、連絡先を2件、安定ヨウ素剤の服用に関して記載する項目などを求めている。
3. 危機管理委員会の設置
役員会のメンバーを中心に危機管理委員会を構成し、郡山市と原発付近の状況（風向き、避難先方向など含め）を日頃から把握しておく。また、避難の際、原発課題班と情報交換し判断をサポートしていただくための体制を築いておく。
4. 避難準備計画の提示
教会員に「緊急事態発生時マニュアル」を提示し、牧師、役員、危機管理委員会、原発課題班の役割と事前準備を共有しておく。教会員は日々、車両のガソリンを充てんしておくことと、他に何を準備しておいたら良いのかについて記載している。また、非常事態の際の行動の流れ、連絡体制、緊急時に持ち出し携行する物（牧師が持ち出す物含む）、更に、避難しないで自宅待機する場合に準備するものなどを記載している。
その「緊急事態発生時マニュアル」と「緊急時連絡先」、「避難先計画書」に加え、教会員が居住している各市の緊急連絡情報先をファイルにまとめ教会員に配布する。

震災から6年経って思うこと

福島旭町キリスト教会 渡邊 光江

未曾有の震災以来、全国からの様々なご支援を心から感謝しております。

震災以来、放射能を気にかけながら生活してきました。はじめは食材も他県・海外のものを使い、2年半経ってから除染が行われ、洗濯物も、外に干せるようになりました。放射能の力は、目に見えなくてもすごいです。庭の雑草が木のように育ちました。

そんな中で、連盟で用意してくださった「甲状腺検診」を、2013年8月に受けました。検査の結果、結節が見つかり、専門医の精密検査受診を勧められました。市内の大きな病院で受診したところ、「この位はたいしたことはない。気にし過ぎる！」と言われ、見解の相違はあるとは思いましたが、ひどくショックを受けました。放射能について、いろんな情報が飛び交っており、何を信じて生きていったら良いのか、分からなくなりました。私たちの町から多くの子どもたちが避難し、家族がばらばらになったり、風評被害のため産業もずっと落ち込んでしまいました。あの時から6年経とうとしているのに、原発には、水をかけるだけです。これから50～60年、誰が廃炉作業を進めていくのでしょうか。1箇所の原発でもこんなに大変な事が起こったのです。

今回の大震災による原発事故は、私たちに大きな教訓を与えてくれました。神様は人間を創られ、「全ての生き物を治めよ」と命じられました。しかし、私たち人間は神の領域まで入り込み、人の手で終末できないものを作ってしまったように思います。

神様に愛しいものとして創られた私たち人間は、今一度、この地球の生態系を考え、水・太陽光・風力等、再生可能なエネルギーを大切に、もっと神様の御声を聞き、人間同士はもちろん、動植物等も含め、仲良く、生きてゆきたいものです。

B. 緊急時発生 ～避難か自宅待機か～

緊急事態が発生し、原発課題班と危機管理委員会で避難するか否か、避難先方向、避難先などを緊急連絡網で連絡をする。

今までは大量放射能漏れ事故が起きたら250キロ圏外避難を大前提にしていた。しかし、緊急時、交通機関は停止し、交通網は大混乱が予想される。よって、今改訂では、車での移動を考えると雪の日、雨。夜中等は避難するよりもむしろ、落ち着くまでの自宅待機も選択肢に入れた。そのために、10日間分の水、食料などを準備しておくことや、放射能侵入を少しでも防ぐための、窓の隙間を埋める目張り方法、エアコン、換気扇などをビニールで覆うことを共有した。さらに、どうしても外出しなければならないとき、被爆をさけるために用意するものや、安定ヨウ素剤の服用について話し合い、確認した。そのことも「緊急事態発生時マニュアル」には記載している。状況に応じて避難計画を見直すことを含めた事前準備がいかに大切なのかを心に刻みながら、しかし、このような計画と準備が「無駄に終わること」を祈る日々である。

東日本大震災募金報告2017年1月実績

572万円（目標600万円）

<2016年12～1月募金者（受付順、敬称略）> 59名（口）の方から献げられました。感謝申し上げます。 鹿児島、福岡南、目白ヶ丘、品川、宮崎女性会、中野、日立、飯塚、調布、有田ゴスペルクワイア、神戸教会 光の丘幼稚園、かたえ、横浜戸塚、東福岡幼稚園、市川大野、奈良、常盤台めぐみ幼稚園、春日原、春日原 恵星幼稚園、那覇新都心、ニンギョウゲキヤオタコグミ、東京第一、広島、野方、四日市、久保祐子、那覇新都心、大分、西南学院、神戸、相浦光、大分、直方、宝塚、丸亀城東町、港南めぐみ、三島、筑紫野南、筑紫野南、福岡ベター村、仙台長命ヶ丘、調布、中野、大宮、宇都宮、神愛幼稚園、市川八幡、富里教会 女性会、南光台、西南学院小学校、田隈、西南学院、富士吉田、福岡西部、前橋、富野、福岡、シオン山、西南女学院中学・高校